

環境に配慮した取り組み

圏央道（海老名JCT～海老名IC）における環境への取り組み

- NEXCO中日本では、経営施策である「高速道路ネットワーク整備」の取り組みとして、2月27日に圏央道（海老名JCT～海老名IC）が開通します。
- この区間では、経営施策である「環境・持続可能社会への貢献の推進」として、環境に配慮した取り組みを実施しました。
- 相模川に架かる橋梁工事の施工に際して、河川区域内に生育する植物の保全を行いました。その中には、絶滅が危惧されるタコノアシ、カワラノギクも含まれています。
- 保全方法は、工事の影響を受ける範囲の表土を予め厚さは約30cmで剥ぎ取り、工事完了後に戻す復元方法です。表土には、その地域で生息する植物の根茎や種子が入っています。
- 表土の復元は約2500㎡の範囲で行い、復元後の場所では、植物の順調な生育を確認しました。



表土の復元後



4ヶ月後の状況



確認された
タコノアシ

- 海老名ICでは、地元の方々約500人に参加して頂き「さくらの植樹祭」を行い、高速道路の刈草から作ったハイウェイ堆肥を土壌改良材として約400m³使用しました。
- 海老名IC北側の相模川の堤防には桜の木が植えられており、海老名市河畔公園は「相模川八景」にもなっています。
- ICと周辺との調和や、自然環境への配慮を目指して植えた桜は約60本です。
- 3人組音楽グループの”いきものがかり”のヒット曲『SAKURA』は、相模川の堤防の桜の木を歌ったものです。



さくらの植樹祭の風景

- 当社は今後も引き続き、自然環境に配慮した道路（エコロード）づくり、生物多様性への取り組みを進めます。